

## 令和３年度宮城県児童生徒学習意識等調査結果について

## １ 実施状況

## （１）調査の目的

宮城県（仙台市を除く）の児童生徒における震災の影響と学習・生活に係る取組や意識等を調査することにより、児童生徒の心のケアと一層の学力向上を図る教育施策の企画・立案に活用する。また、各学校における教育に関する継続的な検証改善サイクルの充実を図る。

## （２）調査実施期日

令和３年６月２１日（月）から令和３年６月２５日（金）までの期間で学校事情に合わせた任意の日

## （３）調査対象者（仙台市を除く）

対象（＊１）	調査事項	実施校	参加児童生徒数
小学校第５学年の全児童	生活習慣 学習習慣	２４８校	９，９０８人
中学校第１学年の全生徒（＊２）		１３５校	９，９５８人
学校	児童生徒への関わり方 指導方法	上記の全小・中学校	

＊１ 義務教育学校，特別支援学校を含む。

＊２ 中学校においては，平成２６年度から２８年度までは中学校２年生を対象に実施。

2 調査結果の概況 (ページ番号は「別冊：令和3年度宮城県児童生徒学習意識等調査結果」のページ)

(1)「学力向上に向けた5つの提言」と関連する事項 (P1~P5)

- <参考>学力向上に向けた5つの提言
- ① どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること。
  - ② 子供をほめること、認めること。
  - ③ 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。
  - ④ 自分の考えをノートにしっかり書かせること。
  - ⑤ 家庭学習の時間を確保すること。

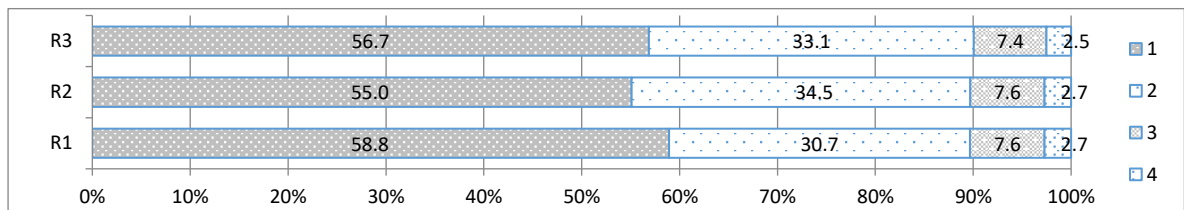
〔改善傾向が見られるもの〕

- 「授業の中で先生から目標(めあて・ねらい)が示されていると思いますか」という質問に、肯定的な回答(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計)をしている児童生徒の割合は、高い数値を維持している。
- 「授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか」という質問に、肯定的な回答をしている児童生徒は、中学校で増加し80%を超えている。

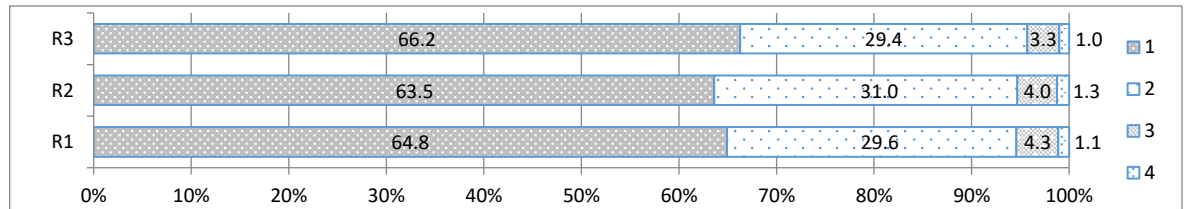
質問事項4「授業の中で先生から目標(めあて・ねらい)が示されていると思いますか」

《選択肢》 1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない

【小学校第5学年】



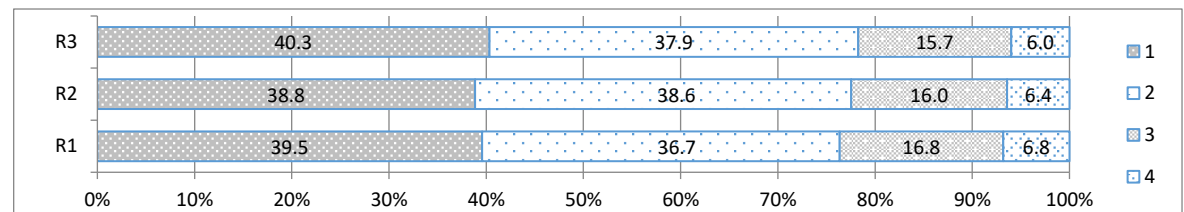
【中学校第1学年】



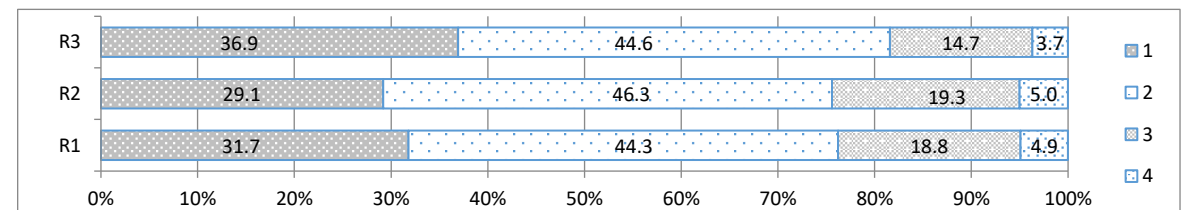
質問事項5「授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか」

《選択肢》 1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない

【小学校第5学年】



【中学校第1学年】



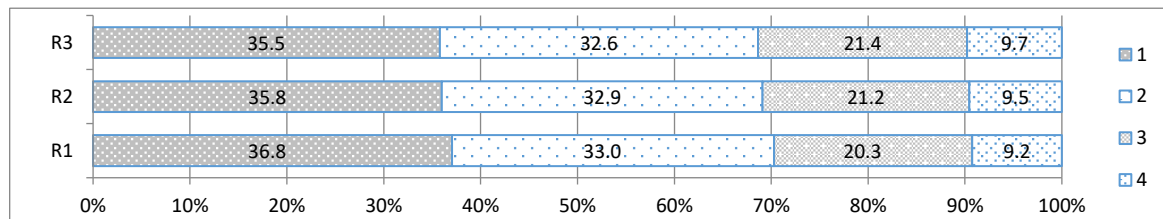
〔課題が見られるもの〕

- △ 「学校の授業の復習をしていますか」という質問に対して、小学校では肯定的な回答が、依然として7割程度にとどまっている。
- △ 「学校の授業時間以外に、平日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」という質問に対して、小学校では学習時間が30分に満たない児童が1割、中学校では1時間に満たない生徒が2割を超えている。

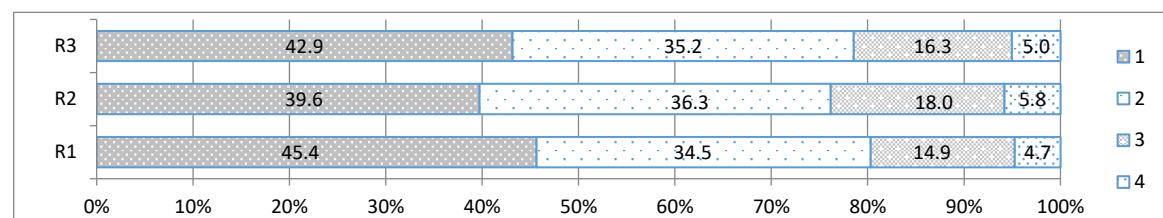
質問事項8「学校の授業の復習をしていますか」

《選択肢》 1 している 2 どちらかといえばしている 3 あまりしていない 4 全くしていない

【小学校第5学年】



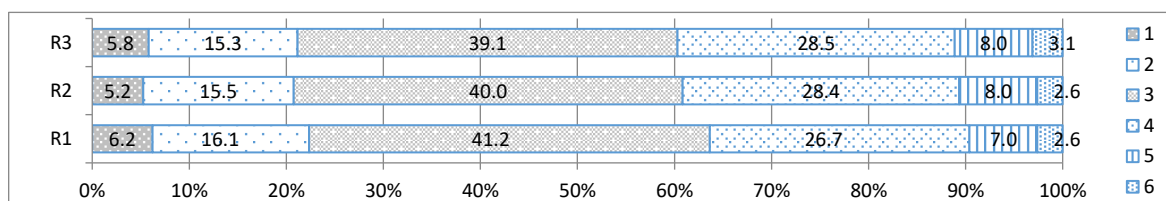
【中学校第1学年】



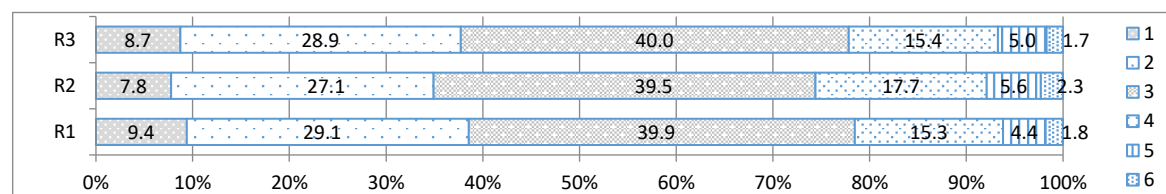
質問事項9「学校の授業時間以外に、平日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。(学習塾や家庭教師を含む)」

《選択肢》 1 3時間以上 2 2時間以上3時間未満 3 1時間以上2時間未満  
4 30分以上1時間未満 5 30分未満 6 全くしない

【小学校第5学年】



【中学校第1学年】

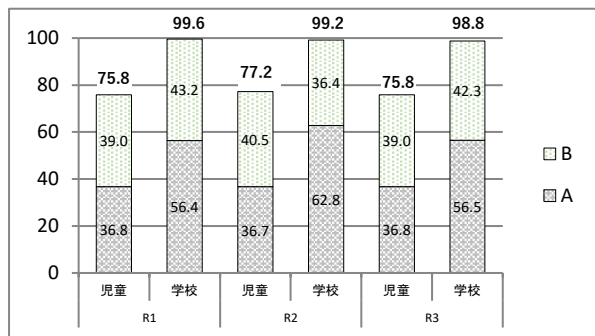


〔課題が見られるもの〕

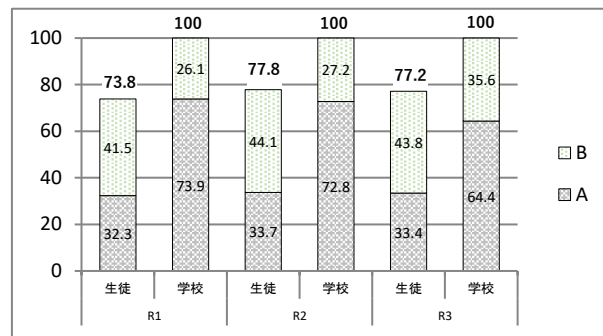
△ 質問事項1における「励まし」、質問事項3における「積極的な評価」、質問事項5における「振り返り」など、依然として学校回答と児童生徒の回答にはかい離が見られる。

質問事項1 (児童生徒) 先生から声を掛けられたり、励まされたりしますか  
 (学 校) 児童生徒一人一人に積極的に声を掛け、励ましたか

【小学校第5学年】



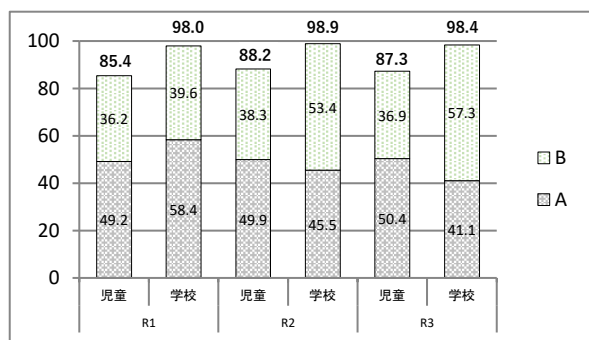
【中学校第1学年】



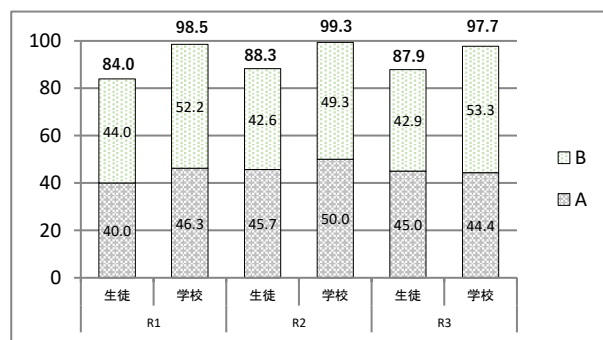
※A：当てはまる B：どちらかといえば当てはまる

質問事項3 (児童生徒) 先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか  
 (学 校) 学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、伝えるなど積極的に評価しましたか

【小学校第5学年】



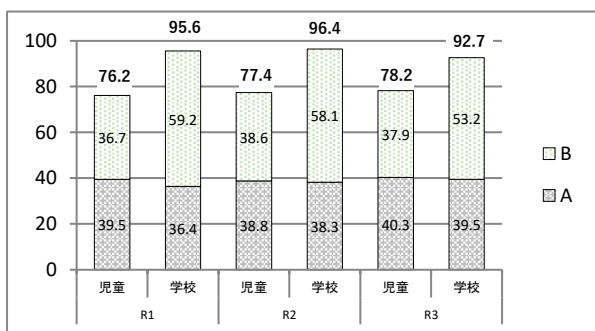
【中学校第1学年】



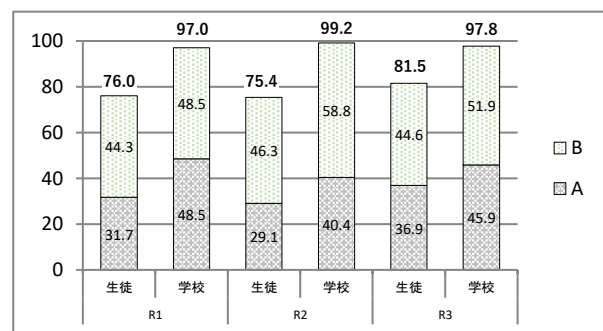
質問事項5 (児童生徒) 授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか

(学 校) 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか

【小学校第5学年】



【中学校第1学年】



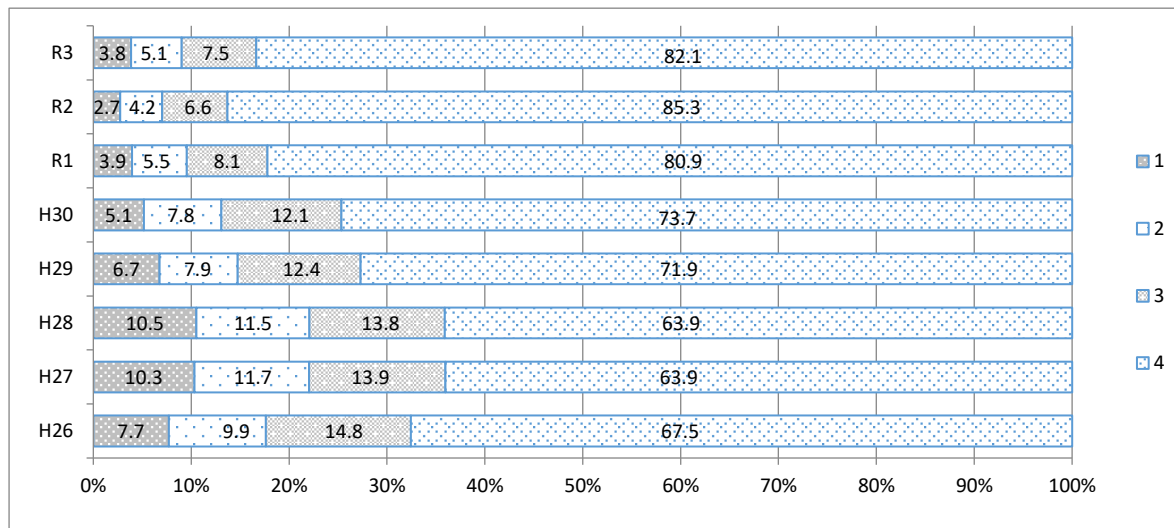
## (2) 震災の影響と関連する事項 (P6~P7)

- 「突然震災を思い出し、気持ちが落ち着かなくなることがある」と回答している割合は、中学校では少しずつ減少しているものの、小学校では昨年度よりも上昇し、依然として震災の影響が見られる。

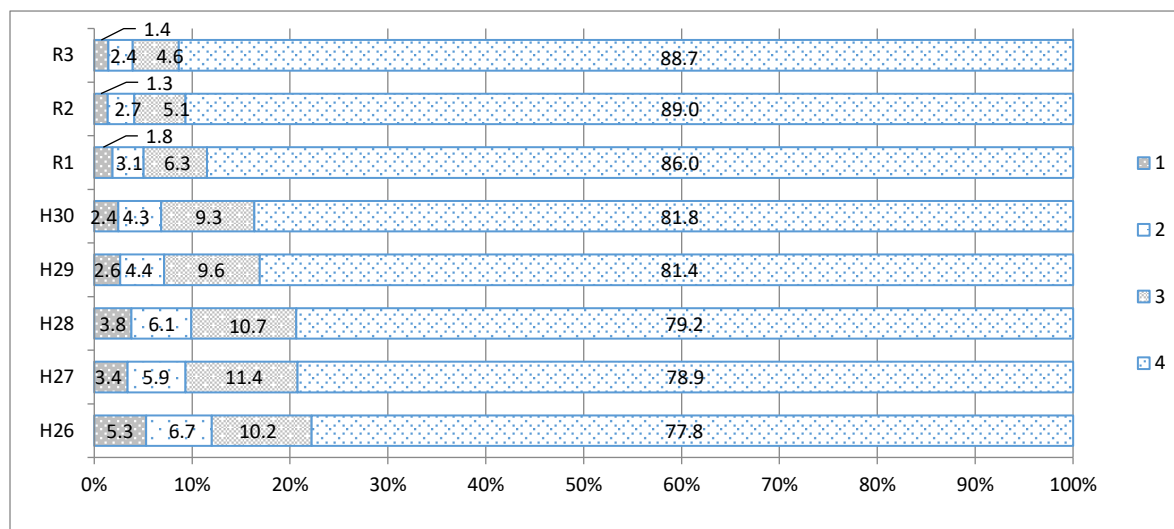
### 質問事項 13 「突然震災を思い出し、気持ちが落ち着かなくなることがありますか」

《選択肢》 1 ある 2 どちらかといえばある 3 どちらかといえはない 4 ない

#### 【小学校第5学年】



#### 【中学校第1学年】



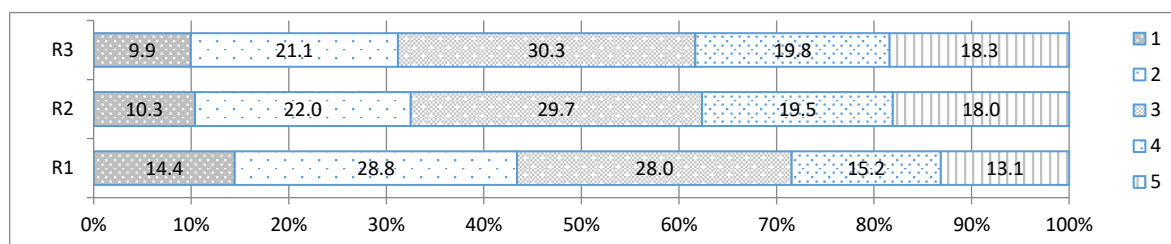
### (3) 基本的な生活習慣と関連する事項 (P10~P12)

△ 「平日に1時間以上テレビゲームをしている」と回答している児童生徒の割合は、小5、中1ともに増加傾向にあり、約2割の児童生徒が3時間以上と回答している。  
 △ 「平日に携帯電話やスマートフォンを勉強以外で3時間以上使っている」と回答している児童生徒の割合が増加傾向にある。

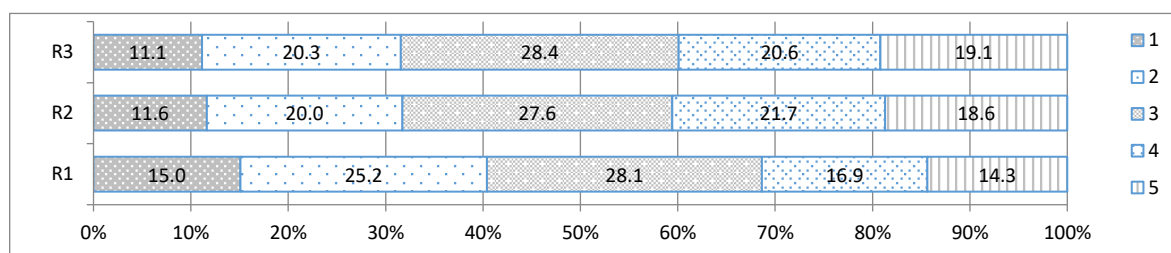
#### 質問事項22 「平日に、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか」

《選択肢》 1 全くしない                      2 1時間未満                      3 1時間以上2時間未満  
 4 2時間以上3時間未満                      5 3時間以上

##### 【小学校第5学年】



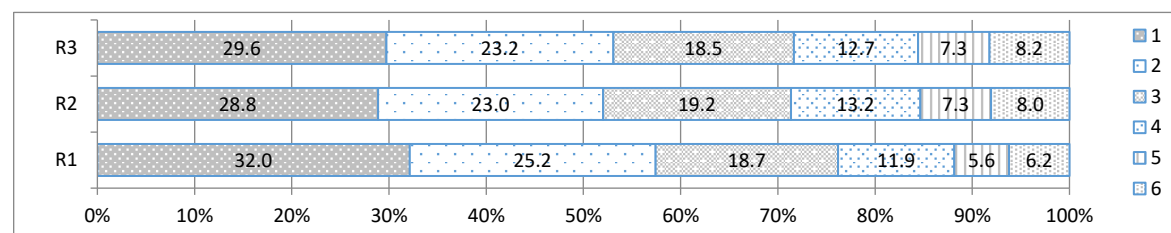
##### 【中学校第1学年】



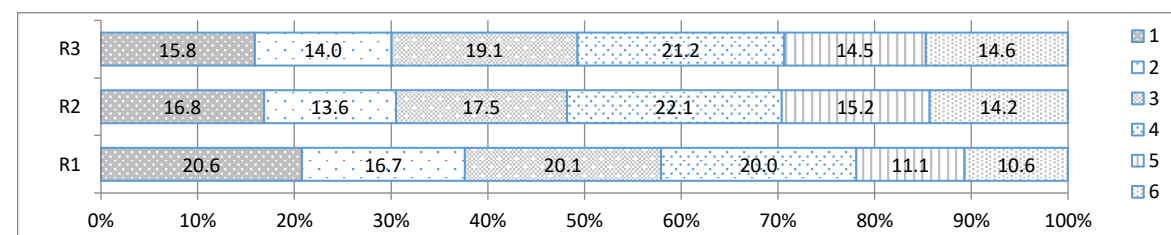
#### 質問事項23 「平日に、携帯電話やスマートフォンを勉強以外で使う時間はどのくらいですか」

《選択肢》 1 全く使わない                      2 30分未満                      3 30分以上1時間未満  
 4 1時間以上2時間未満                      5 2時間以上3時間未満                      6 3時間以上

##### 【小学校第5学年】



##### 【中学校第1学年】



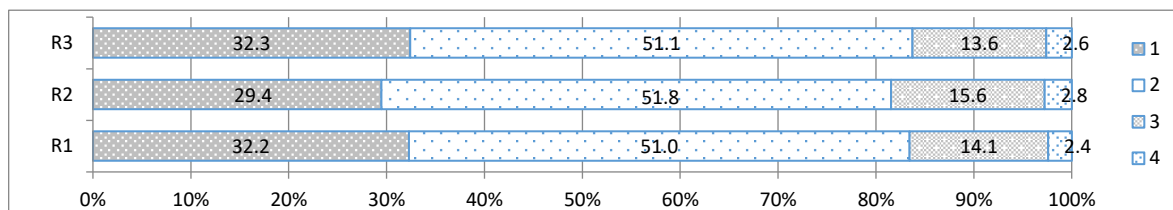
#### (4) 自尊意識・規範意識と関連する事項 (P13~P16)

- 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」という質問に肯定的な回答をしている児童生徒は昨年度よりやや増加した。
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に肯定的な回答をしている児童生徒の割合は95%前後で推移しており、依然として高い数値を維持している。

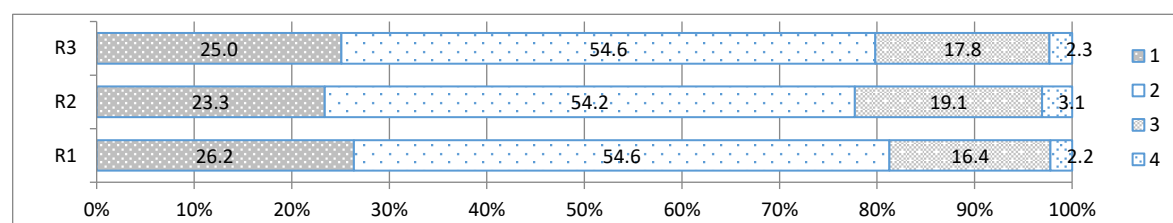
#### 質問事項28 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」

《選択肢》 1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない

【小学校第5学年】



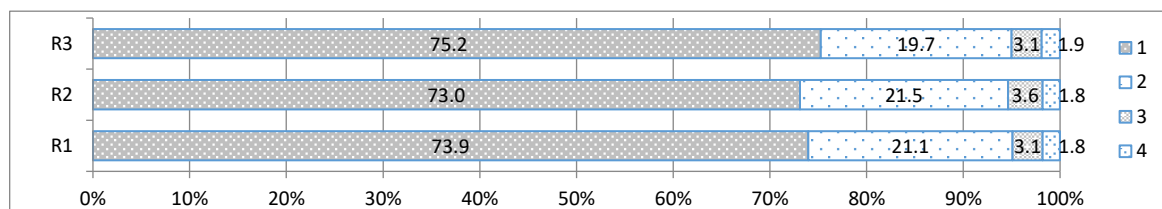
【中学校第1学年】



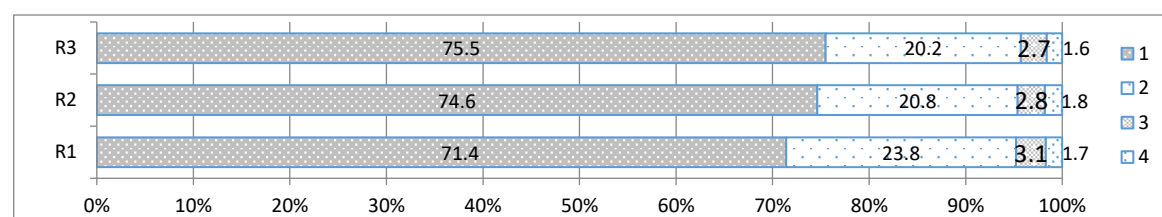
#### 質問事項29 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」

《選択肢》 1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない

【小学校第5学年】



【中学校第1学年】



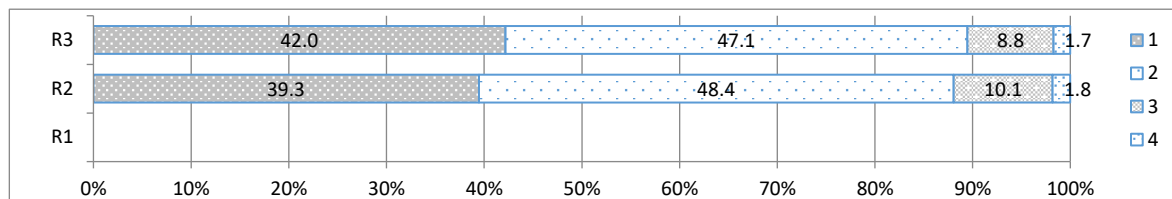
(5) ボランティア活動等と関連する事項 (P17~P18)

- 「人が困っているときは進んで助けていますか」という質問に肯定的な回答をしている児童生徒の割合は昨年度より増加し、約9割となっている。
- △ 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問に対して、肯定的な回答は年々減少している。

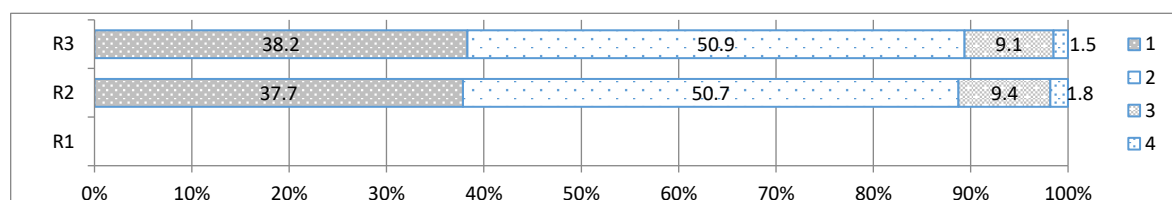
質問事項35 「人が困っているときは進んで助けていますか」

《選択肢》 1 している 2 どちらかといえばしている 3 どちらかといえばしていない 4 していない

【小学校第5学年】



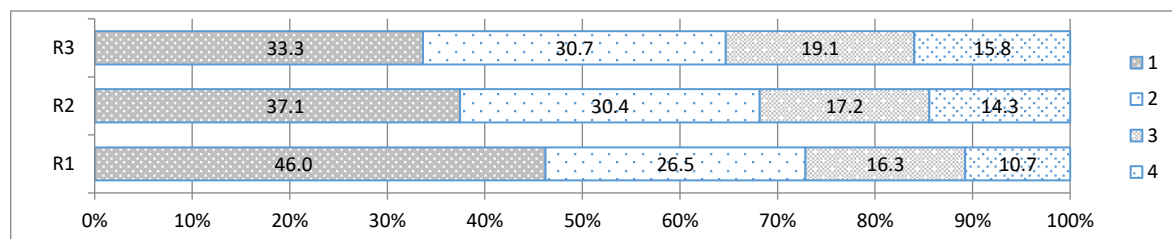
【中学校第1学年】



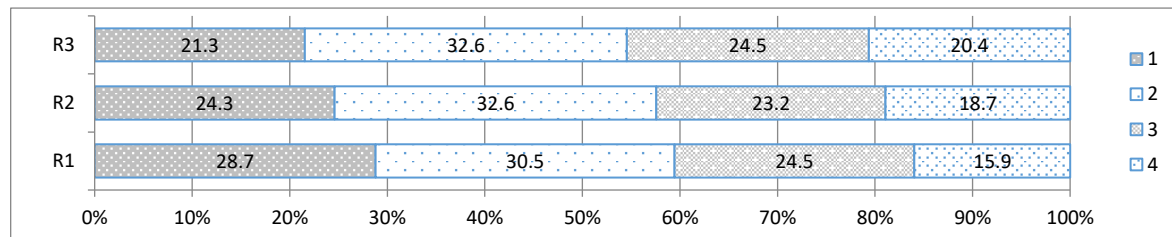
質問事項36 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」

《選択肢》 1 している 2 どちらかといえばしている 3 どちらかといえばしていない 4 していない

【小学校第5学年】



【中学校第1学年】





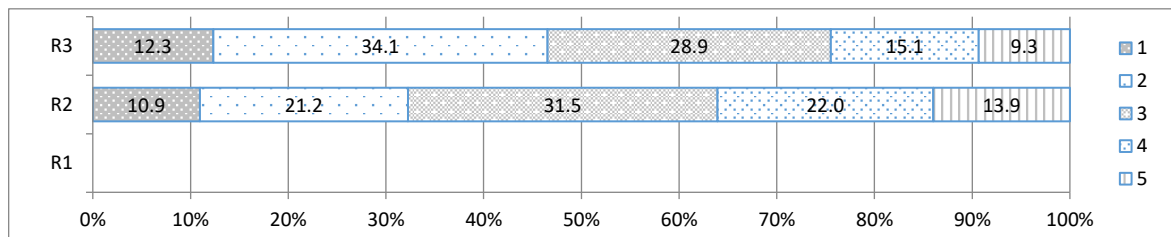
## (6) ICT機器の活用と関連する事項 (P19)

- △ 「授業でコンピュータなどのICT機器をどの程度使いましたか」という質問に対して、小学校、中学校ともに、ほぼ毎日と答えている割合は2割未満となっている。
- 「授業でもっとコンピュータなどのICT機器を活用したい」と答えている児童生徒の割合は増加しており、小5、中1ともに9割近い。

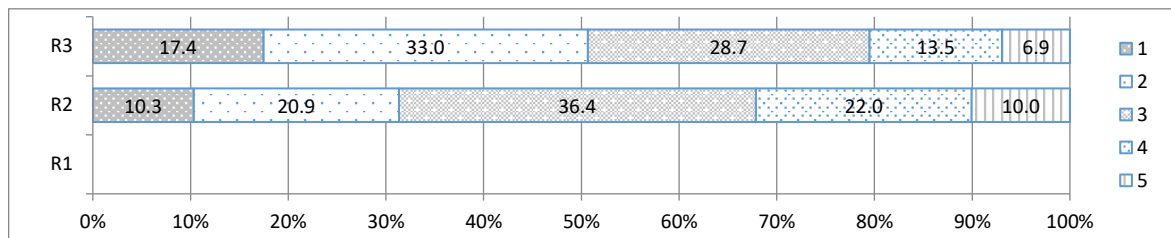
### 質問事項38 「授業でコンピュータなどのICT機器をどの程度使いましたか」

《選択肢》 1 ほぼ毎日 2 週1回以上 3 月1回以上 4 月1回未満 5 その他

【小学校第5学年】



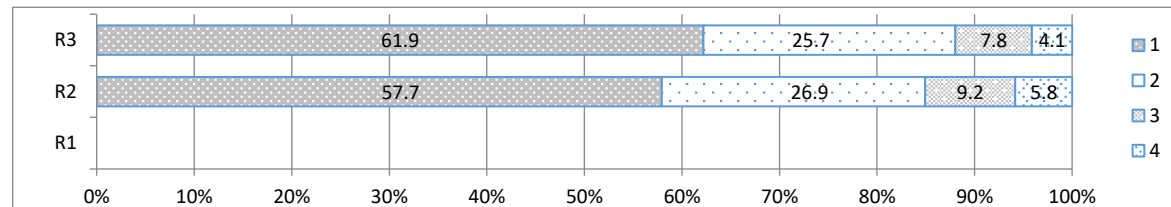
【中学校第1学年】



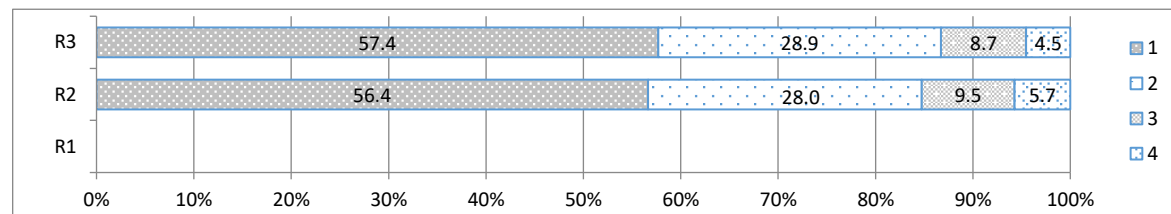
### 質問事項39 「授業でもっとコンピュータなどのICT機器を活用したいと思いますか」

《選択肢》 1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない

【小学校第5学年】



【中学校第1学年】



### 3 課題や意識したいこと

#### (1) 「学力向上に向けた5つの提言」における認識のかい離を解消すること

##### ①提言1に関して

質問 「先生から声を掛けられたり、励まされたりしますか」(児童生徒)  
「児童生徒一人一人に積極的に声を掛け、励ましましたか」(学校)

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計(%)

	児童生徒	学校
小 5	75.8	98.8
中 1	77.2	100.0

- ・2割以上の児童生徒が、教師からの声掛けや励ましを受けていないと感じている現状を受け止め、児童生徒一人一人が実感できる声掛けや励ましが求められる。

##### ②提言3に関して

質問 「授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか」(児童生徒)  
「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか」(学校)

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計(%)

	児童生徒	学校
小 5	78.2	92.7
中 1	81.5	97.8

- ・学習内容の振り返りについては、かい離はあるものの、改善の兆しが見られ、今後も授業時間内で確実に振り返りの場を設定するとともに、児童生徒の主体的に学習に取り組む態度を育てることができるよう、振り返りの質の向上に努めていく必要がある。

#### (2) 望ましい生活習慣を確立すること

##### ①「1時間以上テレビゲームをしている」児童生徒が増加傾向にある。

質問 「平日に、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか」

※「1時間以上」と回答した割合(%)

	R1	R2	R3
小 5	56.3	67.2	68.4
中 1	59.3	67.9	68.1

- ・家庭内でテレビゲームの使い方に関するルールを設けるなど、節度ある利用についての指導を継続していくとともに、家庭での学習時間の確保にも努めていく必要がある。

(3) 震災の影響を今後も注視すること

①児童生徒が震災の影響を感じている。

質問 「突然震災を思い出し、気持ちが落ち着かなくなることがありますか」

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計 (%)

	児童生徒
小 5	8.9
中 1	3.8

- ・年々減少傾向にあるものの、小学校第5学年で昨年度よりも増加した現状から、これまでと同様に児童生徒の様子を細やかに観察し、心のケアに努めていく必要がある。

(4) ICT機器を積極的に活用すること

①児童生徒は授業でもっとICT機器を活用したいと思っている。

質問 「授業でもっとICT機器を活用したいと思いますか」

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計 (%)

	児童生徒
小 5	87.6
中 1	86.3

質問 「授業でコンピュータなどのICT機器をどの程度使いましたか」

※「ほぼ毎日」の合計 (%)

	学校
小 5	12.3
中 1	17.4

- ・授業でもっとICT機器を活用したいと思っている児童は9割近いのに対し、ほぼ毎日使っていると回答している学校は2割未満にとどまっており、1人1台端末の積極的な活用を推進していく必要がある。

#### 4 今後の対応

「3 課題や意識したいこと」を踏まえ、以下の点について取り組んでいく。

- 児童生徒が学習したことの意義や価値を実感し、自己肯定感を高められるような授業づくりの推進を図る。
- 授業と連動させた家庭学習や、一人一人の実態に応じた課題の出し方について工夫するなど、家庭学習の質の向上を図るよう促していく。
- ゲーム機やスマートフォン、タブレット端末等の望ましい使用の在り方や情報モラルについて、児童生徒の主体的なルールづくりを促していく。
- 震災後10年が経過したが、今後も児童生徒の健全な成長に向け、継続的に心のケアを行っていく。
- スクールカウンセラー等の効果的な活用を通して、児童生徒や保護者が安心して相談できる校内体制を整えるとともに、教職員向けの生徒指導や教育相談に関する専門的・実践的な研修を実施し、教育相談の充実を図る。
- 授業等において、ICT機器のより一層の有効活用を促していく。

## 県立高等学校の全国募集による入学者選抜の実施について

### 1 目的

県外の生徒と本県の生徒が共に学び、多様な価値観に触れることで視野を広げ、他者と協働、共生しながら、互いを高め合い、心身ともに豊かな人間への成長を促す。また、地元自治体の協力の下、地域の資源等を最大限に活用し、学校の特色や魅力づくりに取り組むことで教育活動の活性化を図り、地域の未来を切り拓く新しい価値を生み出すことができる人材の育成を目指す。

### 2 実施する高等学校

全国募集による入学者選抜（以下「全国募集選抜」という。）を実施する高等学校（以下「実施校」という。）及び実施学科は、以下のとおりとする。

- (1) 宮城県志津川高等学校 普通科及び情報ビジネス科
- (2) 宮城県中新田高等学校 普通科

### 3 募集人数

- (1) 全国募集選抜に係る募集人数は、宮城県公立高等学校入学者募集定員（以下「募集定員」という。）とは別に定める。
- (2) 宮城県公立高等学校入学者選抜第一次募集（以下「第一次募集」という。）及び連携型選抜による県内中学生の合格者数が、実施校の募集定員に満たない場合、募集定員から第一次募集及び連携型選抜の合格者数を減じた人数を、(1)に定めた募集人数に加えて、合格させることができる。

### 4 出願資格

宮城県公立高等学校入学者選抜要項で別に定める出願資格に加え、以下の(1)～(3)をすべて満たす者とする。

- (1) 実施校が所在する市町村（以下「関係市町村」という。）及び地域での学びに関心があり、志願先の実施校への志願理由が明確であること。
- (2) 志願者及び保護者が宮城県外に居住していること。
- (3) 志願者が志願先の実施校への入学期日までに、宮城県内に居住する予定であること。

## 5 出願に際しての留意事項

- (1) 出願手続き及び提出書類については、別に定める。
- (2) 出願を希望する志願者及び保護者は、志願先の実施校及び関係市町村を事前に訪問し、見学等を行うこととする。実施校及び関係市町村は、志願者及び保護者に対して、出願に係る諸手続のほか、入学後の学習環境や居住環境等について十分な説明を行うこととする。
- (3) 出願に際しては、志願者及び保護者は、志願先の実施校に宮城県内に居住する身元引受人を届け出るものとする。ただし身元引受人の確保については、関係市町村に依頼することができる。

## 6 選抜方法

- (1) 全国募集選抜は、第一次募集の日程に合わせて実施する。
- (2) 選抜は、調査書、学力検査の結果及び面接の結果に基づく総合的な審査により行う。なお、配点等は実施校ごとに別に定め、事前に公表することとする。
- (3) 学力検査の実施教科は、国語、社会、数学、理科及び英語とする。
- (4) 面接は、提出された志願理由書に基づいて行うこととする。

## 7 生徒の安全・安心の確保

身元引受人、実施校、県教育委員会及び関係市町村が連携して次の事項に取り組み、生徒の安全・安心を確保するよう努める。

- (1) 身元引受人は、生徒の生活状況を見守りながら、保護者や学校と共有する。また、生徒の病気やけがの際には、実施校と連携して対応する。
- (2) 実施校は、生徒との日常のコミュニケーションを通じて、生徒の生活状況等を把握し、生徒が不安をもつ際にいつでも相談できるよう、相談体制を整備する。また、生徒の病気やけがの際には、保護者及び身元引受人と連携して対応する。
- (3) 県教育委員会は、生徒の生活状況や身元引受人の見守りの状況等を把握する。また、必要に応じて、高等学校及び市町村に指導・助言を行う。
- (4) 関係市町村は、学習環境や居住環境を整備する等、生徒の学校生活に支障が生じないよう支援を行うとともに、高等学校と情報共有を図り、生徒の安全・安心の確保に努める。また、志願者及び保護者から依頼を受けた場合は、身元引受人を確保する。

## 8 その他

- (1) 全国募集選抜は、令和5年度から令和9年度までの5年間継続実施し、県教育委員会は毎年検証する。
- (2) 実施校の変更が必要な場合は、県教育委員会がその都度検討し公表する。
- (3) 県教育委員会は、令和8年度高等学校入学者選抜審議会において、全国募集選抜の検証結果を報告する。

## 全国募集実施スケジュール

